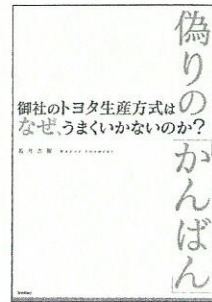




オタクで女の子な国のモノづくり
◎川口盛之助著
(講談社・一、五七五円)



5Sのすすめ方
◎越前行夫著
(日本能率協会マネジメントセンター・一、八九〇円)



御社のトヨタ生産方式はなぜ、うまくいかないのか?
◎若井吉樹著
(技術評論社・一、六五九円)

本書を読んでいて、思わずにやにやしてしまっただけで、決して変な意味ではない。著者の問題意識は極めてまっとうで、真面目なものだ。大人は、とかく「アキバ」や「オタク」、「ギャルファッション」などという言葉を知ると、眉をひそめがちである。しかし、このようなカルチャーこそが、世界市場のなかで日本製品が生き残っていくために日本独自の強みになりうるのではないかと著者の問題意識である。本書では、日本製品のオタク性が10の法則としてまとめられている。「キラキラ星の瞳が車のヘッドライトに」「電車のなかで話しかけてくるキティちゃん」などの事例から、日本製品は擬人化が大好きという法則を導き出したり、人を病みつきにさせる仕組みや、技術的にはできるが敢えて製品化しない寸止めの贅沢、使う人のための機能より周囲の人に控え目に自己主張する機能など、従来の枠にとらわれない自由な発想から、日本のモノづくりに利用できる法則がまとめられている。

著者曰く、欧米風の価値観にもとづく理性的な大人を成人男性文化の象徴だとすると、日本人が生み出す贅沢すぎるほど便利な製品は女の子文化の象徴であり、この贅沢さこそが、日本製品に備わる強力な武器である。

(坂爪 裕／慶応義塾大学)

5Sは、企業のベースであるということは、共通認識であろう。また、どの職場でも5Sは、当たり前のことと実施されているだろう。しかし、5Sを漠然と実施している企業や、なかなか継続しない企業も多いのではないだろうか。筆者は、5Sを継続させる方法を次のようにあげている。(1)5Sを正しく理解すること。(2)正しい5Sのすすめ方を取り入れること。(3)5Sを楽しむこと。本書はこの考え方にもとづき、序章と8章から構成されている。第1章では、5Sを正しく理解するために、5Sとは何かについて、書かれている。第2章では、5Sの導入方法について、5Sをはじめの姿勢、推進方法、組織など具体例をまじえ、書かれている。第3章から第7章までは、「整理」、「清掃」、「整頓」、「清潔」、「しつけ」について、それぞれ、なぜ、何を、誰が、いつやるのかが、書かれている。第8章では、楽しく価値ある5Sにし、継続するための方法について、書かれている。

全編を通して、企業の成功事例が、コラムで多数紹介されている。また、イメージしやすい図解とワンポイントレッスンが記載されており、理解しやすくなっている。継続的5S活動を具現化するための1冊である。

(田中孝一郎／株ボッシュ)

この書籍は「偽りのかんばん」とも副題がつけられており、表紙を見ると一見ドキッとさせる。しかし、読み終えると題名のネガティブなイメージとは違い、導入してから遭遇する事柄について、親切に解説・説明してくれている。

一般のトヨタ生産方式の解説書とは切り口が違う。その導入がうまくいかない例と、なぜうまくいかなかったかという視点で具体的に解説してある。また、その解説からトヨタ生産方式を指導されているコンサルティングの先生の個性と、話術から習うことの多い内容を知識としても理解できる構成になっている。

かんばんを導入したがどういふわけか在庫が増えてしまい、一方では必要な部品が入らない状態になった企業の例、トヨタ生産方式をはじめたら部門間で衝突が起きる例。加工VS組立、検査VS製造、技術VS製造、工場VS営業、…。

理屈から理解するではなく、実際にやってみて壁にぶつかり苦労して身につけるのがトヨタ生産方式だということを再認識させてくれる書籍である。専門用語の解説も頁ごとに差し込まれているので、生産部門以外のトップの方にも読んでもらいたい内容である。

(加山一郎／株金門製作所)